

母子健康手帳の一部改訂ならびに母子健康手帳と 学童健康手帳との関連に関する研究

—母子健康手帳改訂に対する検討—

分担研究者 高橋悦二郎(愛育会総合母子保健センター)
研究協力者 大國眞彦(日本大学小児科)
高石昌弘(国立公衆衛生院、東京大教育学部)
平山宗宏(東大・母子保健学)
松山栄吉(東京厚生年金病院産婦人科)
本多洋(三井記念病院産婦人科)
堀口貞夫(愛育病院産婦人科)
下宮進(文部省体育局学校保健課)
三木和彦()

はじめに

母子手帳が出来てから40年、この間何度かの改訂がなされ最近では昭和51年に母子健康手帳のかなり大幅な改訂があった。又昭和55年度厚生省乳幼児身体発育値が発表され、その結果を昭和56年度からの母子健康手帳に入れ替えることになり、その機会にも母子健康手帳の全面的改訂が考えられた。但しこの昭和56年度の改訂は身体発育値を取りかえることが主で、他は6つの基礎食品の項目(5ページ)と用語の改訂4カ所にとどまった。

実際に現行母子健康手帳を使用してみると、まだまだ改良すべき点もあり、又その活用方法、殊に学童の健康手帳と関連をもたせたい意向からは検討すべき点が多い。取りあえず今年度は母子健康手帳改訂に対する研究討議を目的とした。

研究方法

日本小児保健学会評議員並びに会員、日本母性保護医協会や日本母性衛生学会評議員並びに会員に母子健康手帳の改良すべき点について意見を求め、更に保健所等からの意見も求め、これ等を中心にして研究討議がすすめられた。

母子健康手帳全ページに涉り、改良を希望する

事項は膨大な数にのぼったが、それ等を整理し、各事項について班員全員で討議し研究がすすめられた。

研究結果

まず最初に改訂を希望する主な事項を表(1~4)に示す。これ等各項目について検討討議が行われ、研究班の意見として次の様な結果を得た。

表紙裏ページ：更に入学後を入れた方がよい。

1ページ：直ちに(2週間以内に)とした。

3ページ：改訂意見に賛成

4ページ：貧血予防のために、妊娠中毒症の予防のためにの項目で意見は出たが、従来通りで可とした。

5ページ：図や摂取量の目安、肥り過ぎ予防の文章を入れることも賛成ではあるが、現行の大きさ・頁数の母子健康手帳には入りきらない。

6ページ：高血圧云々の代りに妊娠中使用する薬品やつわり、月経周期日数等入れ替えたい項目ではあるが、きちんと書ける妊婦は少いのではなからうか。検討事項ではある。

「分娩」と「出産」は学術的根拠に基づいて使い分けることが望ましい。

8~9ページ：浮腫、尿蛋白、尿糖の-、±、+

は現行のままとした。

体重kgを浮腫の次にもってくるのはデザインを替えるだけの事であるが、現行で可。

胎児心搏数、胎位記入欄等、時に妊婦に余計な心配をかけるのではないか。

8～11 ページ：梅毒血清反応、超音波断層診断等その他種々の検査事項につき、現段階では検査出来ない場合もあり、結果を医師以外に見せることがなければよいが、母子健康手帳に結果を入れるのは微妙な問題が多々あり、現行のままの方が無難である。

12 ページ：ルビあるかなしか現行通りで可

13 ページ：出産後の母体の経過記入4段となっているが、1, 3, 7 日及び1月とすればこれでよい。

15 ページ：体重変化グラフを産後6カ月まで延長したいが、現行の枠内では無理。

18 ページ：育児上の感想などを自由に記入する欄を1行でも2行でもつくる。

19 ページ：晩期新生児の用語は新生児用語委員会で検討する。産婦人科では妊娠初期・中期・晩期を用い前期後期は使わない。

血清ビリルビン値、アプガースコア等を入れる希望はかなり見られたが、医事紛争の種にもなり兼ねないので、現行通りとした。

新生児訪問指導の項目は、保健指導の所に追加する。

24 ページ：目の前で手を動かすと、それを目で追いますかの質問は大部分の保護者が「いいえ」と答えるので、これを削除乃至他の質問にかえる改訂案が多い。51年改訂の際生後1カ月では少し早い、早くから保護者に視力や聴力障害等に関心を持たせようとの意図から取り上げられた経緯もあるので、そのままにされていたが、「目に光を当てるとまぶしそうにしますか」というような質問に代えた方がよさそうに思える。

29 ページ：離乳：すすめている・未開始の方が良いがスペース上現行のようになった。然し次のむし歯の欄は不要なので、それを取り除けば充分入り得る。

30 ページ：笛やラッパを吹いて遊びますかの項

目は改訂案の方が良いと考える。

32 ページ：ひとり歩きはまだ入れなくてよいのではないか。

33 ページ：断乳・離乳完了の意義判定はむつかしいが現行で可。

36, 38 ページ：改訂希望意見を検討する。

39 ページ：むし歯A型・B型・C型むし歯の判定は一般健診医には書きこみにくい。歯科の先生と相談し調整する。

56 ページ：最後のページに身体発育値、予防接種歴、既往罹患疾病等サマリーが一目で分るページが出来れば、就学時や学童健康手帳への関連がより容易となり、母子健康手帳活用上より有効となるであろう。

第4表にはその他の改訂希望意見を示し、それに対する研究班員の意見を述べた。

母子健康手帳を学童健康手帳と関連をもたせる問題は大方の意見は賛成であるが実際問題としては困難な点が多い。日本小児保健学会の一評議員は次の如く述べている。既に昭和30年頃“児童福祉法10年”の頃厚生省母子衛生課を中心にした検討会で話題が出て何とかしなければという意見もあり、その後再三話は出たようである。理念としては確かに一貫したものがほしいが、これを管理の為のものとするか、本人の為のものとするのか、すっきりさせてからでないかと木に竹をついだようになる危険もある。学童健康手帳は目下の所教材、健康教育の為の資料として全く教育目的であり、用いようと用いなかろうと全く自由。母子健康手帳は管理に重きを置いたもの。学校における管理は健康診断票（法により細く規定あり）と保健室での健康相談などのカルテ等である。夫々目的があり、なかなか理念通りにいかぬものである。強いて母子健康手帳と学童健康手帳を結びつけるより、別途に生涯保健の為の手帳を考えた方がよいのではないか。

結 論

昭和56年度は以上の如く、母子健康手帳改訂に

関する研究討議が主となった。

日本小児保健学会評議員並びに会員，日本母性保護医協会，日本母性衛生学会評議員並びに会員，その他保健所等合計約 500 名から母子健康手帳改定に関する意見を求め，全ページに渉って検討した。一部は尚検討続行中のものもある。

又，母子健康手帳の各年齢に於ける利用率（保護者の欄の記載の有無，医師その他の指導欄の書き込み等）も現在調査中である。

学童健康手帳についても現在その実態調査を行っている。

母子健康手帳改訂案

昭和 56 年度

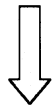
ページ	項目	現	改訂希望意見																					
表紙裏	3 項目	小学校へ入るときの健康診断	小学校へ入るとき，更に入学後の健康診断（就学後も必要なので大切に保存する）																					
1	欄外（下）	直ちに出生届を出して	2 週間以内に出生届を出して																					
3	産後も健康に注意（下から 3 行目）	1～2 カ月頃には	産後 1 カ月から 2 カ月の間には																					
4	貧血予防のために	良質のたんぱく質 ビタミン 卵・肉類・レバー・大豆類	動物性たんぱく質 ビタミン C 肉類，赤身の魚（追加）レバー・卵・大豆類と順序をかえる																					
		青菜類	青菜類の鉄は利用可能なもの少く，貧血食の主流にはならない																					
5	妊娠中毒症の予防の為に 6 つの基礎食品	乳類 ラード	牛乳や乳製品とした方がよい 妊婦には好ましくないのではないか「脂肪は主に植物油で」としたら，図を入れる。栄養素を入れる。摂取量の目安を入れる。余白欄（4 ページ）に肥り過ぎの防止の文章を入れる。																					
6	妊婦の記事	記事 X 線検査 近親者の高血圧云々	記録 エックス線検査 つわり初発時期，月経周期日数，妊婦中服用した薬（薬品名，量，使用月日）等を代りに入れる。																					
8～9	いままでの妊娠	出産年月，出産	分娩年月，分娩																					
8～11	妊娠中の経過(1)，(2)	妊娠，出産，産後の状態 浮腫，尿蛋白，尿糖	妊娠，流産，分娩，産後の状態 夫々に，±，+，Ⅱ～を入れる（P. 13 も同様） 検定法の種類，判定法，ペーパーの会社別等で+，Ⅱの区分は不明瞭なので，無有か-+の如く簡略化する。 独立にきりはなさないで浮腫の次にくっつける。 胎児心拍数，胎位記入欄が欲しい。																					
		体重 kg	それ以外に風疹抗体価，HBs，トキソプラズマ等の検査月日，結果等乃至結果票を貼付する欄を設ける。																					
		梅毒血清反応，血液型	例																					
			<table border="1"> <tr> <td>梅毒血清反応</td> <td>結果</td> <td>実施年月日</td> </tr> <tr> <td>血液型</td> <td>A B O</td> <td>Rh</td> </tr> <tr> <td>HBs 抗原</td> <td>結果</td> <td>実施年月日</td> </tr> <tr> <td>風疹抗体価</td> <td>結果</td> <td>実施年月日</td> </tr> <tr> <td>風疹予防接種</td> <td></td> <td>実施年月日</td> </tr> <tr> <td>トキソプラズマ</td> <td>結果</td> <td>実施年月日</td> </tr> <tr> <td>細胞診</td> <td></td> <td>実施年月日</td> </tr> </table>	梅毒血清反応	結果	実施年月日	血液型	A B O	Rh	HBs 抗原	結果	実施年月日	風疹抗体価	結果	実施年月日	風疹予防接種		実施年月日	トキソプラズマ	結果	実施年月日	細胞診		実施年月日
梅毒血清反応	結果	実施年月日																						
血液型	A B O	Rh																						
HBs 抗原	結果	実施年月日																						
風疹抗体価	結果	実施年月日																						
風疹予防接種		実施年月日																						
トキソプラズマ	結果	実施年月日																						
細胞診		実施年月日																						
			超音波断層診断のことを記入する欄を設ける。 子宮底長と母体体重増加グラフを設ける																					

ページ	項目	現 行	改 訂 希 望 意 見
11	質問したいことのお ぼえ書		質問に対しての答の内容を記入する部分があるとよい 妊娠中に出血のあった月日を記入する欄を設ける
12	出産の状態	「分娩」にルビあり	分娩の状態 「ルビ」あり又はなしで統一する アプガー記入欄をつくる
13	出産後の母体の経過 母親自身の記録	産後 日目	産後の母体の経過 産後検診の記入4段は不要 産後 日 目をとる。産後の日数も新生児と同様満日 数とする。何日目と数えない。(19 ページ欄外と同様)
15	妊娠中と産後の 体重変化		妊娠中と産後の体重変化の記録を別にした方がよい。 体重変化グラフを産後6カ月まで延長。増加の上限ラ インをわかるようにしたい。
16	母親学級受講記録		実施機関名を入れては。育児学級等の記載も追加した い。12ページの所へもって行きたい。
18	保護者の記録	下から4行一自由に記入しま しょう。	記入する余白がないので設ける。
18~ 19		※の位置が不統一 P.18 先天 性代謝異常症等検査では前 P.19 満日令では後 (生後1週間以内)	後右肩で統一する。例満日令 [※] 退院時の記録 [※] 先 天性代謝異常等検査 [※]
19	早期新生児期の経過 晩期新生児期の経過	晩期	(1週間未満) 後期(厚生省母子衛生統計には後期となっている。 周産期医療が重視されて来ているので早期新生児期、 退院時、晩期新生児期の経過を夫々半ページくらいづ つ使用し、もう少しわしく書くようにしたい。例えば 黄疸強には血清ビリ値欄がほしい。アプガーの項目をこ こにも入れたい。眼科受診の有無、臍脱の項も入れた い。晩期新生児期の所には貧血の有無。新生児訪問指 導の項目追加(訪問指導月日、指導事項等) 解説をもう少しわしく、50%タイル曲線もほしい。頭 囲もかき入れたい。2ページ~5ページのはじめに出 したい。
20~ 23	乳幼児身体発育曲線		90%がいいえという答、他の質問にかえるか、3~ 4カ月の項目として取り上げるようにしては。
24	保護者の記録 (満1カ月頃)	目の前で手を動かすと、それ を目で追いますか。 はい(カ月 日頃から) いいえ	神経学的異常(診察)所見の項目を追加したら
25~ 27	1カ月 3~4カ月 健康診査		
29	6~7カ月健康診査	離乳:開始・未開始 むし歯:無・有	離乳:もう始めている(すすめている)、未開始 この欄は不要(P.31 9~10カ月健康診査の欄も同様) 6カ月(9カ月、1年6カ月等)健診票をはる欄がほ しい。
30	保護者の記録(9~ 10カ月頃)	笛やラッパを吹いて遊びます か	音の出るもので遊びますか(太鼓、笛等)、(この項目 は耳が聴えるかどうかの質問と思われるが笛やラッパ はしゃぶったり噛んでふかぬ子が多い) ひとり歩きをしますかの項を入れたい。
32	保護者の記録 (満1歳の頃)		
33	1歳 健康診査	断乳、離乳:完了、未完了	断乳、離乳完了の意義判定がむつかしく余り意味がな いのでは
36	保護者の記録 (満2歳の頃)	父母のしぐさをまねしますか	質問の内容が漠然としている。具体的な例をあげる。 母子接触の手がかりの一つとして、「お母さん(又は母 親に代る人)の後追いをしますか」を入れたい。

ページ	項目	現 行	改 訂 希 望 意 見
38	同 上 (満3歳の頃)	衣服の脱ぎ着をひとりでした がりますか	衣服の脱ぎ着や食事の際、大人が手をかそうとする いやがりますかの方が自立の意欲の様子がより明瞭 にわかと思う。 A型・B型・C型を省く。欄外注P.39, 46は削除する
39	3歳健康診査	むし歯：無・有 ※※(A型・B型・C型)	
46～ 47	歯の状態		46ページ1歳6カ月までの歯の状態のページを35ペ ージ1歳6カ月健診に関連をもたせすぐその後へもっ ていきたい。 47ページ1歳6カ月から3歳までの歯の状態のページ も3歳児健診の後にもっていく。 むし歯の処置、指導を行った場合の記入箇所をはっき りさせたい。 フッ素塗布した場合の記録を入れたい。
49～ 52 ⁵⁰	予防接種 その他の予防接種		予防接種時期およびその目安が保護者にわかると便利。 おたふくかぜ、風疹はポリオ、麻疹と同様、欄を設 けたい。麻疹欄は1欄でよい。日本脳炎、インフルエ ンザ等の予防接種も加わるので、その他の予防接種欄 を少し余計に欲しい。
56	最後のページ		重症感染症、罹患疾病、例えば百日咳、はしか、水痘、 おたふくかぜ、MCLS、腎炎、喘息等年長児に関係す ると思われる疾病、或は薬剤アレルギー等既往歴のサ マリーがひと目でわかる欄を設けたい。
25, 27 29, 31 33, 35 37, 39 41, 43 45,	健康診査	次の健康診査までの記録	体重、身長欄を体重(kg)、身長(cm)別々とする。 体重、胸囲、身長、頭囲等の「・」を左方に5mmづつ 動かす。

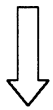
その他の改訂希望意見	研究班意見
①妊娠の週数や月数の数え方など(妊娠週数の早見表を工夫作成)どこかに入 れたい。	あってもよいが過渡的なもの、現行 の手帳には入れにくい。
②里帰り分娩のことも少しふれる(2～3ページ)	先進国には里帰り分娩は見られない。 ふれない。
③妊娠中の経過の項に「乳房の状態」を入れたら(乳児健診で陥没扁平乳頭等 から人工栄養に移るものが多いので妊娠中にチェックして欲しい)	入れた方がよいがスペースがない。
④母子関係の発達及び自主性の発達についてのチェックの方法が欲しい。	スペースがないが次の⑤番の意見と ともに討論検討する余地がある。
⑤精神運動発達の大まかな模式図(デンバー発達スクリーニングテスト等)が 入ると良い。	
⑥テスト的質問はなるべく心配かけないような形式にする。	現行の質問形式で「発達ノイローゼ」 になるとは思われない。
⑦「はい」「いいえ」と云う設問に対する答の記入は「ある」「ない」「できる」 「できない」の方が望ましい。「はい」「いいえ」はテストを受けている感じ がする。	賛成である。
⑧乳児の欄は1, 3, 6, 9カ月のみくわしく書いてあるが、これを各月とも同じ ように出来ないか。	現行のままでもよいと思われる。
⑨乳児健診の際、出生時記録を見つけるのが大変。切込みとか色刷り、印をつ ける等何か考えて欲しい。	色刷り等も考えたが、コストとの関 係で今暫く現行のまましていく。

その他の改訂希望意見	研究班意見
<p>⑩出産の状態の欄が書きこまれていないことがかなり多い。保護者記録欄も同様。もう少し母子健康手帳の意義を喚起することが必要。その為には表紙裏、「母子健康手帳について」の説明の部分にその意義をもう少し明確に修正、将来迄大事に保存させるよう記載する。又健康診査等折にふれて度々必要性を説明する。</p> <p>⑪新生児マスキリーニング、1歳6カ月健診、3歳児健診のあらましの解説がほしい。</p> <p>⑫頁の移動：12頁（出産の状態）を15頁とする。13頁（出産後の母体の経過）を16頁とする。14頁（妊娠中と産後の歯の状態）を12頁とする。15頁（妊娠中と産後の体重変化の記録）を13頁とする。16頁（母親学級受講記録）を14頁とする。19頁（早期、晩期新生児期の経過）を17頁とする。17頁（新生児）を18頁とする。18頁（新生児の続きと保護者の記録）を19頁とする。（この頁の移動の理由は19頁の早期新生児期の経過が産科医が記入する部分と離れているので、12頁、13頁と19頁が続くような位置にしてほしい。</p> <p>⑬問診票の追加挿入：1歳6カ月健診、3歳児健診、就学時健診、その他6カ月、9カ月健診の時等に用いる問診票を夫々の月令の前に挿入するか、或はこれ等問診票を貼布する場所をつくる。</p> <p>⑭母子健康手帳少し小さくて困る。もう少し実用的に考えて欲しい。</p> <p>⑮母子健康手帳の活用限界は地方ではせいぜい三歳児健診の頃迄で、その後の継続は中断してしまい就学児健診には殆ど役に立っていない。就学児に是非母子健康手帳持参させ、学童健康手帳へのドッキングをはかりたい。然してこのドッキングがうまく出来ないのは文部省と厚生省の機構上の連絡がうまくとれないからではないか。</p> <p>⑯学童健康手帳への継続は是非実現して欲しい。</p> <p>⑰母子健康手帳を学童健康手帳へ結びつける件、現行のままでもつながるので殊更考えなおす必要もないのではないか。</p>	<p>医事紛争の対象になる事を避け、書きこみの行われないこともある。 保護者記録欄は折にふれ必要性を説明したり、活用率を高めたい。</p> <p>手帳の理念による。</p> <p>頁の移動は使いやすさから当然考えられる。新生児の所は特に問題が多い。その他乳幼児身体発育値を1～4頁に移すことなども考えられる。</p> <p>問診事項が手帳に入る程度で追加されれば一層活用出来る。</p> <p>昭和51年改訂の時ハンドバックに入る大きさが最良とされ全国的に統一され現行の大きさとなった。 厚生省文部省の立て割り行政の姿勢の中ではよい結果を望むのはなかなか困難であるが、何とか接点を見出していきたい。</p>



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

母子手帳が出来てから40年、乙の間何度かの改訂がなされ最近では昭和51年に母子健康手帳のかなり大幅な改訂があった。又昭和55年度厚生省乳幼児身体発育値が発表され、その結果を昭和56年度からの母子健康手帳に入れ替えることになり、その機会にも母子健康手帳の全面的改訂が考えられた。但しこの昭和56年度の改訂は身体発育値を取りかえることが主で、他は6つの基礎食品の項目(5ページ)と用語の改訂4カ所にとどまった。

実際に現行母子健康手帳を使用してみると、まだまだ改良すべき点もあり、又その活用方法、殊に学童の健康手帳と関連をもたせたい意向からは検討すべき点が多い。取りあえず今年度は母子健康手帳改訂に対する研究討議を目的とした。